

# 新编日本概况

XINBIAN

RIBEN GAIKUANG

主编 陈高峰 黄 周



苏州大学出版社  
Soochow University Press

安徽省教育厅教学研究重点项目(项目编号: 2014jyxm437)阶段成果  
安徽省2014年高校优秀青年人才支持计划(皖教秘人[2014]181号)阶段成果

# 新编日本概况

总主编: 张胜芳

主 审: 小西千

主 编: 陈高峰 黄 周

副主编: 李瑞华 陈 艳 荚 婕

参 编: 甘丽鹃 唐文元 高令君 林燕萍 于 舟

小西千 崇慧雯 于晓萍 闻 杰



苏州大学出版社  
Soochow University Press

图书在版编目(CIP)数据

新编日本概况 / 陈高峰, 黄周主编. — 苏州: 苏州大学出版社, 2017. 6

ISBN 978-7-5672-2125-3

I. ①新… II. ①陈… ②黄… III. ①日本—概况  
IV. ①K931.3

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2017)第 115088 号

书 名: 新编日本概况

主 编: 陈高峰 黄 周

责任编辑: 杨 华 杨 婷

封面设计: 刘 俊

出版发行: 苏州大学出版社(Soochow University Press)

社 址: 苏州市十梓街 1 号 邮编: 215006

印 刷: 宜兴市盛世文化印刷有限公司

网 址: www.sudapress.com

E-mail : yanghua@suda.edu.cn

邮购热线: 0512-67480030

销售热线: 0512-65225020

开 本: 787 mm×1 092 mm 1/16 印张: 13.5 字数: 338 千

版 次: 2017 年 6 月第 1 版

印 次: 2017 年 6 月第 1 次印刷

书 号: ISBN 978-7-5672-2125-3

定 价: 35.00 元

凡购本社图书发现印装错误, 请与本社联系调换。服务热线: 0512-65225020



# 前 言

近一个世纪以来,随着中日文化交流的不断深入,学习日语的人数逐年增多。日本国际交流基金会公布的“海外日语学习者人数最新调查报告”显示,中国的日语学习者数量超过了100万,居世界首位,大多数学习者均在高校学习日语。日语学习人数增长的主要原因是国内越来越多的年轻人受日本政治、经济、文化等的影响,对日语产生了兴趣。但在目前国内关于日本概况的教学活动中,大多数学校使用的仍是相对过时的教材,许多新的、更加深入的日语知识以及日本社会、经济、政治、文化等方面新出现的知识几乎都没有收录,结果一方面导致学生学习日语的兴趣下降,另一方面更无法兼顾学生的自主学习。这样的日语教学,既不能提升学生的日语听、说、读、写等综合能力及实际应用能力,也不能培养学生动脑动手的能力,培养出来的仍旧是“应试型”,而不是“应用型”的日语人才。

日语是交流的工具,除了掌握日语语言知识外,还需要全方位地了解日本,包括地理、自然、历史、政治、经济、社会、文化、文学、思想等知识。这直接来自使用日语的某一实践共同体的活动情境、共同体逐渐积累的独特的洞察力以及共同体的文化。日语的教学过程离不开特定的历史情境脉络,因此必须强调有关日语理解与应用的日本社会文化背景。个体的思维和行动情境是相互造就的,这种互动的过程促进了学生本身学习能力的发展。近年来,国内虽然已有部分专家学者对日本的社会、经济、文化等进行了研究,并且对高校日语教学的教材进行了改编,但现在高校日语专业使用的关于日本社会、经济、文化等的教材还是只涉及了最基本的日本文化知识,而没有纳入更新的内容。

基于以上情况,编写一本全新的日语教材,不仅可以激发学生的学习兴趣,发挥学生的主观能动性,还能有效提高学生的应用能力。学生通过对本教材中的日本相关知识的认知,将进一步掌握综合的日语知识及日本社会文化知识,开阔视野,增强日语综合应用能力,从而提高日语人才的培养质量。

本教材通过对日本的历史、政治、经济、社会、文化等多个方面的研究,以及大学日语教材中存在的不足等方面的调查,立足于现状,从提高学生学习兴趣及日语应用能力的角度着手,通过收录大量的崭新知识,配合相关的图片等以提高学生自主学习的能力,突出语言的实际应用。

本次日本概况教材的改革目的在于给学习日语的学生提供全新的、全方位的日语知

识，提高课堂的教学效果，激发学生学习日语的兴趣，提高学生自主学习能力，提升学生知识运用能力，从而培养“应用型”的日语人才。

本教材的特点主要体现在以下几个方面：

1. 涵盖面广。内容涵盖了地理、历史、政治、经济、社会、文化、文学、思想、教育、科技等多个领域，力求为学习者提供一本全方位了解日本的向导书。

2. 内容新颖。书中有大量全新的知识，是迄今同类教材中少有的。采用的图片、数据及表述等都是最新的、可靠的。

3. 重点突出，叙述简明。为方便学习者掌握，我们在章节设计中力求重点突出，在叙述中力求简单明了，以使学习者在有限的时间内较快地了解、把握日本的各方面内容。

4. 风格活泼，图文并茂。从传统教材“单一文字”的形式变为“图文并茂”型教材，更具有可读性。

本书在编写过程中，参考了国内外有关资料，吸收和借鉴了有关的研究成果，在此一并表示感谢。

由于编者水平有限，加之时间仓促，书中难免有不足或疏漏之处，诚望得到大家的批评、指正！

编者

2016年秋

## 目次

## CONTENTS

## 第一章 日本の地理と自然

## 第一課 日本の地理 / 2

- 一、概説 / 2
- 二、位置 / 3
- 三、面積 / 3
- 四、人口 / 3
  - 1. 将来の人口推計 / 4
  - 2. 人口の推移 / 5
  - 3. 平均寿命 / 6
  - 4. 出生数と死亡数 / 6

## 第二課 日本の地形 / 9

- 一、地勢 / 9
  - 1. 最低点と最高点 / 9
  - 2. 河川と湖 / 9
  - 3. 土地利用 / 9
- 二、海 / 10
- 三、天然資源・主な産出物 / 10
- 四、気候 / 11

## 第三課 日本の自然 / 13

- 一、概説 / 13

- 二、日本で多い災害 / 13
- 三、環境 / 13
- 四、環境問題 / 14
- 五、主な島と特徴的な地形 / 14
  - 1. 北海道 / 14
  - 2. 本州 / 15
    - (1) 東北地方 / 15
    - (2) 関東地方 / 16
    - (3) 中部地方 / 17
    - (4) 近畿地方 / 17
    - (5) 中国地方 / 18
  - 3. 四国 / 19
  - 4. 九州 / 19
  - 5. 南西諸島 / 20
  - 6. 伊豆・小笠原諸島 / 20

## 第二章 日本の歴史

## 第一課 日本史の時代区分 / 24

## 第二課 原始時代の日本 / 26

- 一、旧石器時代（一紀元前14,000年頃） / 26

- 二、縄文時代（紀元前14,000年頃—紀元前300年頃） / 26
  - 1. 人々の生活 / 26
  - 2. 呪術的な風習 / 27
  - 3. 縄文時代の遺跡——三内丸山遺跡 / 27
- 三、弥生時代（紀元前300年頃—250年頃） / 27
  - 1. 米作りの始まり / 27
  - 2. 金属器 / 27
  - 3. 貧富の差ができた / 27
  - 4. 邪馬台国と卑弥呼 / 27
- 四、古墳時代（250年頃—600年代の末頃） / 28
  - 1. 大和朝廷 / 28
  - 2. 氏姓制度 / 28
  - 3. 外来文化の伝来 / 28

### 第三課 古代の日本

- 一、飛鳥時代（592—710） / 29
  - 1. 聖徳太子 / 29
  - 2. 飛鳥文化 / 29
  - 3. 大化の改新 / 29
  - 4. 壬申の乱 / 29
  - 5. 律令国家 / 30
- 二、奈良時代（710—794） / 30
  - 1. 奈良時代の仏教 / 30
  - 2. 天平文化 / 30
  - 3. 奈良時代の文化 / 30
- 三、平安時代（794—1192） / 30
  - 1. 政治 / 30
  - 2. 平安時代の文化 / 31
  - 3. 貴族の生活 / 31
  - 4. 武士の起こり / 31

### 第四課 中世の日本 / 32

- 一、鎌倉時代（1192—1333） / 32
  - 1. 承久の乱 / 32

- 2. 鎌倉時代の文化 / 32
- 3. 元軍襲来 / 33
- 4. 鎌倉幕府の滅び / 33
- 二、南北朝時代（1336—1392） / 33
  - 1. 建武の新政 / 33
  - 2. 南北朝の合一 / 33
- 三、室町時代（1336—1573） / 33
  - 1. 室町時代の政治 / 34
  - 2. 室町時代の経済 / 34
  - 3. 室町時代の文化 / 34
- 四、戦国時代（1467—1590） / 34

### 第五課 近世の日本 / 36

- 一、安土桃山時代（1573—1603） / 36
  - 1. 安土桃山時代の政治 / 36
  - 2. 安土桃山時代の経済 / 36
  - 3. 安土桃山時代の文化 / 37
- 二、江戸時代（1603—1868） / 37
  - 1. 幕府の身分制度 / 37
  - 2. 鎖国 / 37
  - 3. 江戸時代の文化 / 37
  - 4. 元禄文化 / 38
  - 5. 化政文化 / 38

### 第六課 近代の社会 / 39

- 一、明治時代（1868—1912） / 39
  - 1. 明治維新 / 39
  - 2. 文明開化 / 39
  - 3. 日本の産業革命 / 40
  - 4. 教育制度 / 40
- 二、大正時代（1912—1926） / 40
  - 1. 第一次世界大戦 / 40
  - 2. 関東大震災 / 40
  - 3. 社会運動 / 40
- 三、昭和時代前期（1926—1945） / 41
  - 1. 第二次世界大戦の日本 / 41
  - 2. 中日戦争 / 41
  - 3. 日本の無条件降伏 / 41



**第七課 現代の日本 / 42**

- 一、連合国軍占領下の日本  
(1945—1952) / 42
- 二、戦後の日本社会 / 42
- 三、国際社会における日本 / 43
- 四、日本の経済成長 / 43
- 五、平成時代 (1989—現在) / 44
  1. バブル崩壊期——アメリカ  
同時多発テロ発生 (世紀末  
の間) / 44
  2. アメリカ同時多発テロ——世界  
金融危機 / 45
  3. 世界金融危機——東日本大震  
災後の復興期 (平成20年代)  
/ 45

**第三章 日本の政治****第一課 法治国家——日本 / 48**

- 一、概説 / 48
- 二、国制・政体 / 49
  1. 象徴天皇制 / 50
  2. 天皇の地位 / 50
  3. 天皇の国事行為 / 50
- 三、元首 / 51

**第二課 国の政治 / 53**

- 一、日本の統治機構 / 53
- 二、国の政治制度 / 54
  1. 行政 / 54
  2. 立法 / 56
  3. 司法 / 56
  4. 国会議員 / 57
  5. 国会の種類・会期 / 57
  6. 政党 / 58
  7. 55年体制 / 59
  8. 政治改革 / 59
  9. 現在の政治状況 / 59

**第三課 地方の政治 / 60**

- 一、都道府県 / 60
  1. 都道府県知事 / 60
  2. 都道府県議会 / 61
  3. 国会との違い / 62
  4. 権限 / 63
- 二、市町村 / 63
  1. 市町村長 / 64
    - (1) 地位と職務 / 64
    - (2) 議会との関係 / 65
  2. 市町村議会 / 65

**第四課 日本の政治性格と外交関係 / 66**

- 一、日本の政治の基本的性格 / 66
  1. 地政学的条件 / 66
  2. 平和主義をめぐる論争 / 66
  3. 政治的環境 / 67
    - (1) 被選挙権 / 67
    - (2) 政治家としての条件 / 67
    - (3) 世襲議員 / 67
  4. 政治の清廉度 / 68
- 二、外交関係 / 68

**第四章 日本の経済****第一課 日本の産業構造 / 70**

- 一、概説 / 70
- 二、日本の農業と水産業 / 70
  1. 日本の農業の姿 / 70
  2. 日本の水産業の姿 / 71
- 三、日本の工業生産 / 72
  1. 工業とその種類 / 72
    - (1) 日本の鉄鋼業と繊維工業  
/ 72
    - (2) 日本自動車工業 / 72
    - (3) 日本の伝統工業と伝統的工  
芸品 / 73
  2. 日本工業のあゆみ / 74



## 四、日本の商業と情報産業 / 75

1. 日本の商業 / 75
2. 情報産業 / 76

## 第二課 日本経済の歩み / 78

- 一、日本経済の姿 / 78
- 二、戦後の復活者 / 78
- 三、高度成長期 / 79
- 四、安定成長期 / 80
- 五、バブル経済 / 81
- 六、失われた10年と今の日本経済 / 81

## 第三課 日本の企業 / 82

- 一、雇用制度の変容 / 82
- 二、危機に立つ社会保障制度 / 83

## 第五章 日本人の社会

## 第一課 日本人の衣食住 / 88

- 一、日本人の衣服 / 88
  1. 伝統的な服装 / 88
  2. 現代的な服装 / 89
- 二、日本人の食生活 / 89
  1. 和食 / 90
  2. 現代食 / 90
- 三、日本の住居と日本人の生活様式 / 91
  1. 日本の伝統的な家屋 / 91
  2. 日本人の生活様式 / 92

## 第二課 日本人の娯楽、レジャー / 93

- 一、日本の漫画とアニメ / 93
  1. 漫画 / 93
  2. アニメ / 93
- 二、旅行、観光 / 94
  1. 皇居とその周辺 / 94
  2. 明治神宮とその周辺 / 95
  3. 東京タワー / 96

## 4. 温泉 / 97

5. 日本の古都：奈良、京都 / 97
6. 西日本の中心——大阪 / 98

## 第三課 東京スカイツリー / 99

- 一、概説 / 99
- 二、タワーデザイン・ライティング / 100
- 三、注目度 / 102
- 四、電波塔としての東京スカイツリー / 102
- 五、地上デジタルテレビジョン放送送信設備 / 102
- 六、FMラジオ放送送信設備 / 102
- 七、マルチメディア放送送信設備 / 103
- 八、タクシー無線集中基地局 / 104
- 九、その他の用途 / 104
- 十、観光・商業施設としての東京スカイツリー / 104
- 十一、東京スカイツリーの問題点 / 104
  1. 経済面 / 104
  2. 環境・安全面 / 105
  3. 天候問題 / 105
  4. 電波障害 / 106

## 第四課 高齢化社会、少子化問題と社会保障 / 107

- 一、日本人の願い / 107
  1. 人々の様々な願い / 107
  2. 身の周りにある公共施設 / 107
- 二、社会保障と政治 / 107
  1. 高齢化社会から高齢社会へ / 107
  2. 介護分野の問題点 / 108
  3. 新しい高齢者の福祉 / 108
  4. 障害者の福祉政策 / 108

- 5. 少子化の対策 / 108
- 6. 社会保障制度 / 108
  - (1) 社会保険 / 109
  - (2) 公的扶助（生活保護） / 109
  - (3) 社会福祉 / 109
  - (4) 公衆衛生 / 109
- 7. 社会保障と政治 / 109
- 三、災害や事故と政治 / 109
  - 1. 災害と政治のはたらき / 109
    - (1) 集中豪雨の被害と対策 / 109
    - (2) 国や地方公共団体の取り組み / 109
    - (3) ボランティアの活動 / 109
  - 2. 事故と政治のはたらき / 110
    - (1) 福島第一原子力発電所事故 / 110
    - (2) 事故への政治の対応 / 110

## 第五課 日本の交通 / 111

- 一、交通 / 111
- 二、東京駅 / 112
- 三、新幹線 / 112

## 第六章 日本の文化

### 第一課 日本の伝統文化 / 114

- 一、演劇：能楽、歌舞伎、文楽（人形浄瑠璃） / 114
  - 1. 能楽 / 114
    - (1) 能楽の歴史 / 114
    - (2) 能楽の特徴 / 114
  - 2. 歌舞伎 / 115
  - 3. 文楽（人形浄瑠璃） / 115
- 二、芸道：茶道、華道、書道 / 116
  - 1. 茶道 / 116
  - 2. 華道 / 117
  - 3. 書道 / 117

### 第二課 日本の民俗文化 / 119

- 一、国民の祝日 / 119
  - 1. 元日 / 119
  - 2. 成人の日 / 120
  - 3. 建国記念の日 / 121
  - 4. 春分の日 / 121
  - 5. 昭和の日 / 121
  - 6. 緑の日 / 121
  - 7. 子どもの日 / 121
  - 8. 海の日 / 122
  - 9. 山の日 / 122
  - 10. 敬老の日 / 122
  - 11. 秋分の日 / 122
  - 12. 体育の日 / 122
  - 13. 文化の日 / 122
  - 14. 勤労感謝の日 / 122
  - 15. 天皇誕生日 / 123
- 二、通過儀礼 / 123
  - 1. 七五三 / 123
  - 2. 結婚式 / 123
    - (1) 神前式 / 123
    - (2) 仏前式 / 124
    - (3) 教会式 / 125
    - (4) 人前式 / 125
  - 3. 葬式 / 125
    - (1) 仏式 / 125
    - (2) 神道式 / 125
    - (3) キリスト教式 / 126

### 第三課 日本のスポーツ / 127

- 一、相撲、柔道、剣道 / 127
  - 1. 相撲 / 127
  - 2. 柔道 / 128
  - 3. 剣道 / 129
- 二、球技類（野球、サッカー、ゴルフ） / 130
  - 1. 野球 / 130
    - (1) プロ野球 / 131

(2) 高校野球 / 131

2. サッカー / 132

3. ゴルフ / 132

三、オリンピック / 132

#### 第四課 日本文化論の名著 / 134

一、和辻哲郎の『風土』 / 134

二、土居健郎『「甘え」構造』 / 134

三、ルース・ベネディクト『菊と刀』  
/ 135

### 第七章 日本の文学

#### 第一課 日本文学の定義と歴史 / 138

一、日本文学の定義 / 138

二、日本文学の歴史 / 138

三、時代区分による分類 / 138

#### 第二課 各時代の代表作や代表的な作家

/ 140

一、上代文学（飛鳥時代・奈良時代の文学） / 140

1. 『古事記』——現存する日本最古の書籍 / 140

2. 『万葉集』——日本最初の和歌総集 / 140

二、中古文学（平安時代の文学） / 141

1. 『古今和歌集』——中古勅選和歌集の代表作 / 141

2. 『源氏物語』——日本物語文学の集大成 / 142

3. 『枕草子』——日本古代随筆文学の高峰作 / 142

三、中世文学（鎌倉時代・室町時代・安土桃山時代の文学） / 143

『平家物語』——日本軍事物語の傑作 / 143

四、近世文学（江戸時代の文学）  
/ 143

松尾芭蕉——俳諧の最も傑出した代表人物（俳聖） / 144

五、近現代文学（明治・大正・昭和・平成時代の文学） / 144

1. 夏目漱石——明治・大正期の小説家・思想家・英文学家・文明批評家 / 144

2. 谷崎潤一郎——耽美派の文学大家 / 145

3. 芥川龍之介——新思潮派の指導者・近代文学の「鬼才」 / 145

4. 川端康成——日本最初のノーベル賞受賞者 / 146

5. 井上靖——中間小説大家 / 146

6. 三島由紀夫——日本文壇で最も怪異な文学大家 / 147

7. 大江健三郎——日本で二人目のノーベル賞文学賞受賞者 / 147

8. 村上春樹——日本当代文学の開拓者 / 148

#### 第三課 日本の文学賞 / 149

一、概要 / 149

1. 表彰 / 150

2. 正賞・副賞 / 150

二、文学賞の種類 / 150

1. 公募新人賞 / 150

2. 新人賞 / 151

3. その他の文学賞 / 152

三、日本国外の文学賞 / 152

四、小説以外を対象とした文学賞 / 152

五、新聞社主催による賞 / 152

#### 第四課 芥川龍之介賞と直木三十五賞 / 155

一、芥川龍之介賞 / 155

1. 沿革 / 155
2. 成立 / 155
3. 選考過程 / 156
4. 選考基準 / 157
  - (1) 「新人」の基準 / 157
  - (2) 作品の長さ / 157
5. 直木賞との境界 / 157
6. 批判 / 158
7. 最年少・最年長受賞記録 / 159
8. 歴代ベストセラー作品 / 159
- 二、直木三十五賞 / 161
  1. 沿革 / 161
  2. 傾向 / 162
  3. 最年少・最年長受賞記録 / 163
- 三、文学賞に対する批判 / 163

## 第八章 日本の教育と科学技術

### 第一課 日本の教育 / 166

- 一、日本の教育制度 / 166
  1. 教育制度の発展 / 166
  2. 学校教育制度 / 167
    - (1) 幼児教育 / 167
    - (2) 義務教育 / 167
- 二、学校の生活と学習塾 / 169
  1. 学校の生活 / 169
  2. 学習塾の特徴 / 170
- 三、特色がある学校教育 / 170
  1. チームワークの精神 / 171
  2. 道徳教育 / 171
- 四、教育の問題 / 172
  1. 不登校 / 172
  2. いじめ / 173
- 五、21世紀の日本教育改革 / 174
  1. これからの教育の目標 / 174
    - (1) 自己実現を目指す自立した人間の育成 / 174
    - (2) 健やかな心と健やかな体を

- 備えた人間の育成 / 174
- (3) 「知」の世紀をリードする創造性に富んだ人間の育成 / 174
- (4) 国際社会を生きる教養ある日本人の育成 / 175
2. 目標実現のための課題 / 175

### 第二課 日本の科学技術 / 176

- 一、電子産業 / 176
- 二、宇宙開発 / 176
- 三、原子力 / 177
- 四、ノーベル賞 / 177

## 第九章 日本の思想

### 第一課 古代の思想 / 180

- 一、神話思想 / 180
  1. 最古の思想作品——『古事記』 / 180
  2. 日本に伝存する最古の正史——『日本書紀』 / 181
- 二、上代歌謡 / 181
  - 『万葉集』——古代歌謡の集大成 / 181
- 三、古代の仏教 / 182
  1. 奈良仏教 / 182
  2. 平安仏教 / 182
- 四、国風文化と浄土信仰 / 182

### 第二課 中世の思想 / 184

- 一、武士の登場と貴族の記憶 / 184
- 二、鎌倉仏教 / 184
- 三、室町文化 / 184

### 第三課 近世の思想 / 186

- 一、近世武士の思想 / 186
- 二、朱子学 / 186

三、朱子学批判 / 187

#### 第四課 19世紀の思想 / 189

一、国学の大成者——本居宣長 / 189

二、中国観の転換と「西洋」の発見  
/ 189

三、思想上の激動期 / 190

四、自由民権運動 / 191

五、内村鑑三の絶対非戦論と無教会  
主義 / 191

#### 第五課 20世紀の思想 / 193

一、柳田国男と日本民俗学 / 193

二、社会主義 / 194

三、戦後民主主義 / 194

#### 付録 / 196

1. 日本文学史年記表（古典編）  
/ 196

2. 日本文学史年記表（近現代編）  
/ 201

#### 参考文献リスト / 204



## 第一章 日本の地理と自然



## 第一課

## 日本の地理

## 一 概説

日本は、島国であり、領土がすべて島から成っている。日本の領土は、日本列島（本州・北海道・九州・四国などが主たる島）を中心に、南に延びる伊豆・小笠原（おがさわら）諸島、南西に延びる南西諸島（沖縄本島が最大の島）など、6,852の島から成っている。

地理学上の分類ではないが、国土交通省は、日本を構成する6,852の島に「本土」と「離島」の二つの区分けを設けている。つまり、北海道・本州・四国・九州・沖縄本島の5島を「本土」、これら5島を除く6,847島を「離島」としている。

島国である日本は、ユーラシア大陸東端の極東・東アジアの沿岸沖、また太平洋北西の沿海部に位置し、全体として弧状列島を形成している。

この弧状の日本の国土は、総面積が約37.8万km<sup>2</sup>で世界第61位である。その約70%が山岳地帯で、その約67%が森林である（国土面積は日本政府が領有権を主張する領域）。

日本は島国であるとともに、国土の約73%を山地が占める山国でもある。そのため、日本の河川は流路延長に比し川床勾配が急で、大陸を流れる川と違い、一気に流れ下る川が多い。しかも多雨地帯にある。従って、侵食力が強い山地では深いV字谷を、盆地や平野など山地からの出口には扇状地を発達させていることが多い。また、河口付近には厚い堆積層からなる平野を形成している。中部地方から東北地方にかけては、河岸段丘を発達させていることが多い。

日本周辺の海は一つに繋がっているが、東側および南側が太平洋（日本では、小笠原諸島以西の太平洋はフィリピン海と呼ぶ）、北西側が日本海、西側が東シナ海、北東側がオホーツク海と呼ばれている。本州と四国の間の海は特に瀬戸内海と呼ばれており、多数の島々が点在する。



日本列島と周辺の状況

(出所:「日本の地理」ウィキペディアフリー百科事典)



日本の気候は、列島の中央を縦走する山岳地帯を境に太平洋に面している地域と日本海に面している地域とで大きく異なる。北海道と本州の高原地帯が亜寒帯、南方諸島の一部は熱帯、それ以外の地域は温帯に属しているが、南北で気温差が大きい。

冬は、冷たい北西季節風が強く、日本海側は雪が多い。一方、太平洋側は、晴天に恵まれて空気の乾いた状態が続く。気温の変化は次第に北上していき、冬から春、春から夏へと移り変わる。長雨の時期である梅雨の後、晴れが多く高温多湿の夏を迎える。8月後半の残暑と入れ替わりに、秋雨と台風のを季節を迎える。

## 二 位置

日本はアジア（ユーラシア大陸）の東方（欧米から見れば極東）の沿海部にある四つの弧状列島（日本列島、千島列島、琉球列島、伊豆・小笠原諸島）から成り立っていて、太平洋の西部にある島国である。3000以上の島のうち、主なものは北海道、本州、四国、九州の四つである。日本海を挟んでロシア、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）、大韓民国（韓国）と隣り合っていて、東海を挟んでは中華人民共和国（中国）と隣り合っている。つまり、日本は海を隔てて、北はサハリン・シベリア、西は朝鮮半島・中国と隣接している。また、南側で太平洋（フィリピン海）を隔てて米領北マリアナ諸島と隣り合っている。

この位置は、大陸の政治的変動に巻き込まれることなく、大陸の文化を取り入れられる有利さを持っているため、日本は建国以来、固有の文化を残しながら、外来文化を摂取し、独自の融合文化を築いてくることができた。

日本の周辺は全て海であり、島国であるため、他国と陸上において接していない。周辺は海であるが、樺太が日本本土から43キロメートルの位置にあり、ロシアが日本から一番近い他国の領土である。

## 三 面積

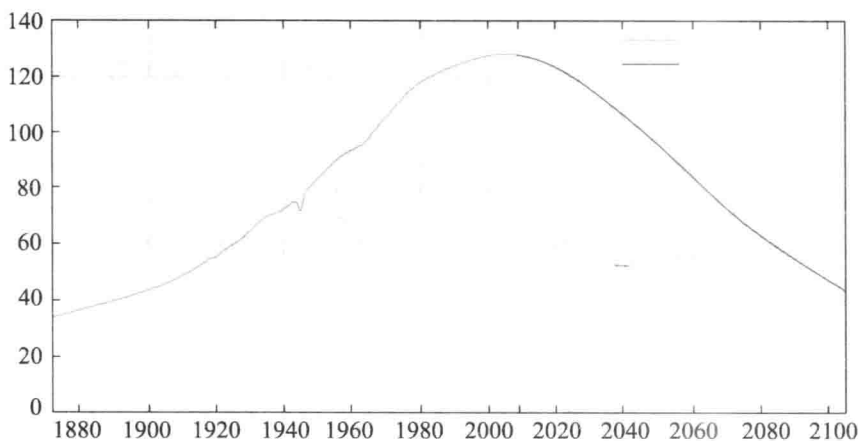
領土の面積は377,929.99km<sup>2</sup>、約38万km<sup>2</sup>であり、イギリスの1倍半、アメリカのカリフォルニア州とほぼ同じである。（2007年国土地理院全国都道府県市区町村別面積調による）領海面積は3,091km<sup>2</sup>である。

国の面積はモンタナ州より僅かに狭い。ヨーロッパの国なら属領を含むノルウェーよりも狭く、ドイツより僅かに広い。アジアの国々と比べるとウズベキスタンやイラクよりもやや狭く、マレーシアやベトナムよりは広い。アフリカの国々ではジンバブエより狭くコンゴ共和国よりは若干広い。

## 四 人口

日本はOECD（Organization for Economic Cooperation and Development）諸国の中で最も少子高齢化が進んでおり、世界のどの国も経験したことのない速度で人口高齢化が進行している<sup>1</sup>。日本人の数は128,058,000人（2010年10月1日時点）で、2005年に比べ29万人（0.23%）減少した<sup>2</sup>。

日本の総人口は2014年では1億2713万人で、前年に比べ20万人（0.16%）の減少<sup>3</sup>。

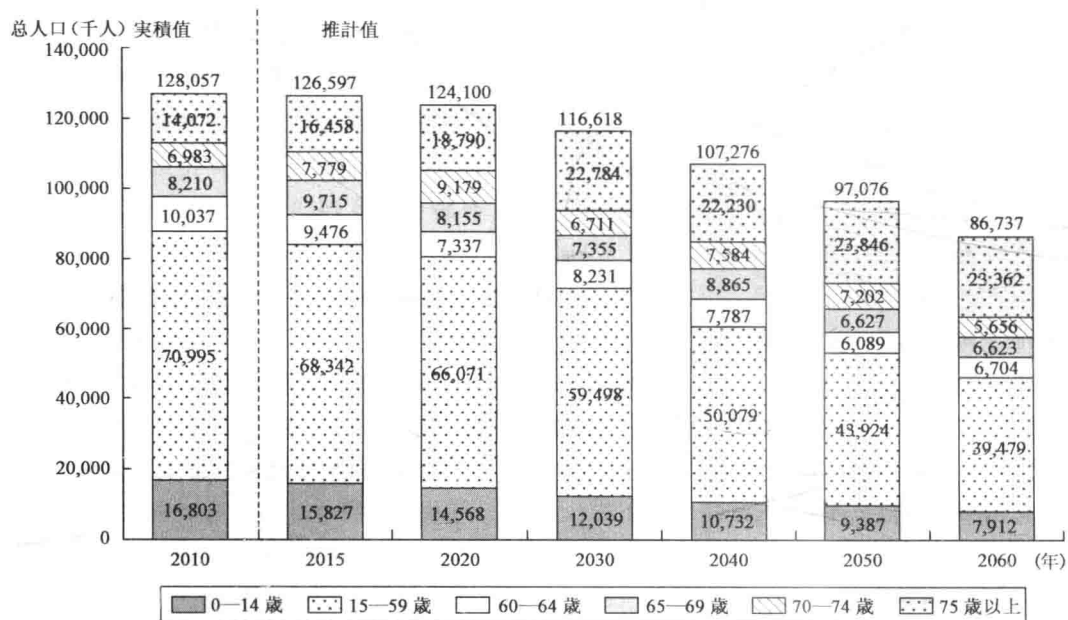


日本の人口の推移(1872年—2009年)と将来予測(2010年以降)  
(出所:「日本の人口統計」 ウィキペディアフリー百科事典)

### 1. 将来の人口推計

日本の高齢者人口は増加を続け、2042年(平成54年)に3878万人でピークを迎え、その後は減少に転じると推計されている。<sup>4</sup>

「2005年(平成17年)10月1日の国勢調査」に基づく「2055年までの将来の人口推計」が、2006年(平成18年)12月に公表されたが<sup>5</sup>、近年の出生率低下や寿命の伸びを反映して、



資料：2010年総務省「国勢調査」、2015年以降は国立社会保障、人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」の出生中位、死亡中位仮定による推計結果

注：2010年の総数は年前不詳を含む。

「将来推計人口でみる50年後の日本」  
(出所：内閣府2014年2月8日閲覧)